

当研究会は岐阜商工会議所に登録している各専門家25名が研鑽を重ね、企業や事業支援の実践に役立てることを目的としています。  
主な活動は、企業経営に関する法律、税務、財務、販売、事業承継、ITなどの事例を通して各専門分野からの意見や提言を行い、企業最適化を図ることです。



松下幸之助氏

歴史は形を変えて繰り返す！歴史(戦略)に学ぶ企業経営

# 激動の昭和を生き抜き、戦後の日本経済を築いた 創業者たちの経営の真髄に学ぶ ①

1 昭和を代表する経営者

経営の神様といわれた松下幸之助、世界のソニーを創った井深大、町工場から世界に羽ばたいた本田宗一郎、海賊と呼ばれた出光佐三、洋酒文化を創造した鳥井信治郎。日本を代表する企業を育てた経営者は、なにを考え、どう行動(考働)してきたのか。

- 松下幸之助(パナソニック)  
1894年(明治27年)～1989年(平成元年)  
・経営の神様と崇められた国民的英雄
- 井深大(ソニー)  
1908年(明治41年)～1997年(平成9年)  
世界を変えた、昭和のおやじさん
- 本田宗一郎(本田技研工業)  
1906年(明治39年)～1991年(平成3年)  
町工場から世界に飛び出した男
- 出光佐三(出光興産)  
1885年(明治18年)～1981年(昭和56年)  
大家族主義の行者として艱難に向かう
- 鳥井信治郎(サントリー)  
1879年(明治12年)～1962年(昭和37年)  
洋酒報国を信じて疑わず

2 名経営者の共通行動(考働)は「知行合一」

知行合一とは「実践重視」の考え方。知識と行動は本来同一であり、知って行わないのは真に知っていないと言えない。真の知は必ず実行を伴うもの。「知ることは行うことの始めであ



中小企業診断士・  
社会保険労務士・販売士  
**大野実雄氏**

●プロフィール  
(オオノ シツオ)  
メーカー、経営コンサルティングファームを経てオオノ経営労務事務所開設。「変化には変化でしか対応できない」を企業支援の基本としている。著書に「売れるように売れば必ず売れる」「働き方・生き方こそ軸」「勝つ企業」等がある。

り、行うことは知ることの実成であって、それは一つの事である。聖人の学問はただ一つの工夫あるのみで、知ることを行うことを分けて二つの問題としないのである」。

- ・知っている、分かっているでは話にならない。やっているかどうかである。
- ・やるために知識がなかったら知識を習得する。
- ・知識を習得したら実践する。実践できない知識を得てもムダとなる。
- ・知識だけなら学者(経営学)になる。経営とは実践の上になり立つ。
- ・本や研修からは知識しか得られない。知識を知恵に変換するには、実行した経験である。日々の職場での仕事こそが「最高の学びの場」であることを認識する(料理のレシピを習っても作らないと意味がない)。

3 なぜ、企業差が生じるのか…

どの企業でも「事業(経営)計画」は存在する。差を生む最大の要因は「知と行」の距離の問題である。すなわち、計画倒れになってしまう。計画(目標を立てても実行できないからである。計画に多くの時間と労力を費やすことで、計画を作成したら円滑に実行できると思い込んでしまう。P・D・C・A(Plan(計画)・Do(実行)・Check(検証)・評価)」「Action(改善・再実行)」の「D・C・A」を重視すべきである。

4 松下幸之助

日本を代表する電機メーカー「パナソニック」(旧社名…松下電器産業、松下電器製作所、松下電気器具製作所)を一代で築き上げた経営者であり、「経営の神様」とも称されている。16歳の時に大阪電燈(後の関西電力)に入社し、7年間勤務した後、妻や友人5人で電球ソケットの製造販売事業を開始(この時のメンバーには後に三洋電機を創業することとなる井植歳男がいる)。1918年に事業拡大に伴い「松下電気器具製作所」を創業。1935年に「松下電器産業株式会社」へと社名変更。194

5 松下幸之助のエピソード・名言

- ①幸之助が社員の一人に「幽霊は、なぜ怖いかわかるか」と聞いたことがある。社員が「足がないからです」と答えると、「そうや。足がないということは、それが何者やら実体がわからないから怖いのだ。経営でも実体が見えないと怖い。何が起るかわからないから」と応じた。幸之助は「見えないものを見るようにするのが経営だ」とした。そのためには「自分でわかるまで考えよ」「現場に出よ」と勧めたという。
- ②幸之助は失敗をしたことがないと断言をしている。その自信は「意の如く、事が運ばないことを失敗というのなら、それは今までにずいぶんあった。しかし、私はいつも禍転じて福とするようにしているので、その意味では失敗をしたことはない」とのこと。また「失敗した所で止めるから失敗になる。成功するところまで続ければ成功になる。」という発言は有名である。
- ③自分に対して厳しい幸之助は交通渋滞が原因で会議に間に合わなかつ

6 松下幸之助は現状の困窮(コロナショック)をどう言うか?(推測)

- ①自分が方向を変えれば新しい道はいくらでも開ける。
  - ②逆境もよし、順境もよし。要はその与えられた境遇を素直に生き抜くことである。
  - ③人生における成功の姿は、予知できない障害(コロナ)を乗り越え、自分に与えられた道を着実に歩んでいくことにあらわれる。
- 歴史は、今を経営する者がより良い事業を展開するために、先人が遺してくれた経営の鑑(かたみ)でもあります。
- \*中実(ちかみ)は諸説あります。本文とは異なる説もありますのでご了承ください。
- \*参考文献：昭和時代年表(岩波ジュニア新書、昭和時代(朝日新聞出版)、昭和の名経営者たち(日経BP社)、松下幸之助 成功の金言(日経P研究所)
- \*イラストはイメージです。